



# 犬飼金男

お別れの会

2023年1月13日





犬飼金男  
満92歳

# 大きな樹のような存在で

いつでもあたたかく  
やさしいまなざしで 私たちを見守ってくれていた  
それは まるで大きな森のなかの象徴として佇む  
大きな 大きな樹のように  
安心して寄り添い 頼れる存在でした

忙しい中でも 社員たちのさまざまな相談を  
最高の笑顔をみせながら  
大丈夫だ やればできる と  
励ましの声をかけてくれたことに  
どれだけ勇気づけられたか

そして「気力 関心 感動」  
大好きだったこの言葉たち  
これに「無」がつくような人にはなるな ということも  
よく言われていましたね

私たちの人生の道標となる言葉や  
事業の基本となる礎  
たくさんの大きな功績を遺してくれました

犬飼金男という存在は  
私たちの心にしっかりと刻み込まれています  
すべての原動力として





## 犬飼金男のあゆみ

株式会社プラルトと  
株式会社センデンをつくりあげた功績

犬飼金男は、1952年、弱冠22歳で社会市場における印刷需要の成長を捉え、松本市蟻ヶ崎にて現在の株式会社プラルトの前身である「中信凸版印刷所」を創業。活版印刷の町工場からスタートしました。その後オフセット印刷への参入やデジタルメディアへの事業拡大など、時代変遷を的確に捉えるとともに、お客様の想いを実現することを第一に考え70余年間変わらずに歩んできました。その間に、広告宣伝・看板制作事業をおこなっていた「株式会社宣電」も創業。多様化するお客様のニーズに応えながら事業を推進、さらに、新たな挑戦として不動産事業へと事業展開を果たし、株式会社センデンと名を改め、長野県下のエイブルネットワークを構築していきました。遺してくれた大きな功績は、常になにごとにも全力で向き合い行動してきた証でもあります。

長きにわたり、お客様、社員たち、そして、何よりも家族、すべてに大きな愛情を注いできた人生でした。

**1930**  
(昭和15年)

松本市南新町にて生誕  
幼少時は旧長野県東筑摩郡錦部村  
(現在の松本市四賀)にて育つ

**1948**  
(昭和23年)

南安曇農業高等学校  
(旧南安曇農業学校)卒業

**1952**  
(昭和27年)

松本市蟻ヶ崎にて  
**中信凸版印刷所(現プラルト)を創業**  
自身で活版印刷機を購入し、創業する。



高校卒業後、犬飼は、経理会社に勤務。ある会社へ経理事務のスタッフとして出向した先で「印刷の手配」を手伝ったのが始まりでした。この時、印刷の「おもしろさ」に引き込まれ、今後は、情報伝達には印刷が不可欠なものになると感じ、わずか数ヶ月後には自ら印刷会社を設立し、進み出しました。

創業当時は、営業車両もなく、完成した印刷物は自転車でお客様のところまで配達していました。冬は雪が降り積もる中、「お客様がお待ちになっている」という思いから納品に向かいましたが、あまりの寒さに口が動かず話ができなかったということもあったそうです。現在、スピード化のためにインターネット通信等を利用する場面も多くなりましたが、お客様から直接ご注文を受け、印刷物を制作し、納品までをおこなうこと。このスタイルは、現在と何ら変わりはありません。

**1954**  
(昭和29年)

中信凸版印刷有限公司に名称変更  
法人組織に切り替え、それに伴い名称を  
中信凸版印刷有限公司とする。

**1960**  
(昭和35年)

オフセット印刷機導入

**1964**  
(昭和39年)

松本市城西に工場新築移転  
中信凸版印刷株式会社に改組後、  
30年間同所で営業する。

**1970**  
(昭和45年)

カラー印刷開始



1973  
(昭和48年)

## 松本市蟻ヶ崎にて 株式会社宣電を創業

広告宣伝・看板制作事業に特化してスタート。



株式会社宣電創業当時の事業を紹介するパンフレット。

1990  
(平成2年)

オフセット輪転機を導入  
大量生産が可能に。

中小企業庁より長官賞を受賞

1992  
(平成4年)

ハイビジョン印刷開発実用化成功  
※ハイビジョン特許認定(平5-77135号)



写真集「国宝 松本城」を印刷。430線の高精細で印刷されたこの作品は、実物同様のシャープな色合いと、ボリューム感を再現している。

全国印刷工業組合より奨励賞、  
全日本印刷工業組合連合会より  
組合功労賞をそれぞれ受賞

1993  
(平成5年)

現在地に本社を新築移転  
敷地面積4,950m<sup>2</sup>、建物延面積2,120m<sup>2</sup>



全日本印刷工業組合連合会より  
研究開発功労賞を受賞



「日本の印刷」1993年10月号に犬飼の功績が掲載されました。

1993年の株式会社プラルトは、当社のハイビジョン印刷(高精細印刷)の実用化とそのシステム構築が評価され、全日本印刷工業組合連合会より、研究開発功労賞を受賞。同年の「日本の印刷」10月号にも大きく取り上げられました。

またこれ以後、各マスメディアにもたびたび特集として「ハイビジョン印刷の実用化」が紹介され、全国各地より多数のお問い合わせをいただきました。

また、この年は大きな変革として現在地に本社と工場を新築移転。犬飼の陣頭指揮のもと、営業、デザイン制作部門をワンフロアに集中させ、ものづくりに対してのコミュニケーションの円滑化をより推進し、効率的な業務フローを確立していきました。

1994  
(平成6年)

プラルト東京営業所を開設  
営業拠点を拡大し、より幅広い受注を目指す。

1995  
(平成7年)

株式会社宣電を改め  
株式会社センデンに社名変更

不動産事業に価値を見出し事業展開をスタート。

広告宣伝業を主体業務とする「株式会社 宣電」として広告制作や看板制作等を中心に活動していた中、犬飼は、エイブルネットワークとの出逢いがきっかけとなり、社会における不動産業の重要性と発展性を確信しました。それまでおこなってきた印刷事業で日々信念としていたことは、お客様の成果(印刷物)をつくり出すとともに、その印刷物を見るお客様(ユーザー)にも成果や価値をもたらすこと。不動産事業においても「オーナー様は良いお客様に家を貸し、入居者様は良い条件の家を借りたい。双方が喜ばれるよう橋渡しの仕事をする賃貸住宅業も同じことではないか」。その想いが今日の株式会社センデンの事業の始まりとなりました。



**1996**  
(平成8年)

社名を中信凸版印刷株式会社改め  
株式会社プラルトに社名変更  
長野営業所を開設。



1996年に改めた株式会社プラルトという社名は、「PRINT(印刷)とART(アート)」を結合させた言葉で、同時に当社がめざしていく基本コンセプトを社名としました。犬飼が創業以来、発展させてきた「印刷」という軸を守り、付加価値のある高いアート性をもつ印刷物をご提供していくことで、お客様の企業活動の支援につながればと考え、社名変更に踏み切りました。そして、この「プラルト」を示すロゴの形状は、創業地信州松本から眺める北アルプスの美しい山並みをモチーフとしています。

**1998**  
(平成10年)

エイブルネットワーク松本店オープン



株式会社センデンは、平成10年には「エイブルネットワーク」の仲間入りをし、本格的に賃貸住宅業として新たなスタートを切りました。

犬飼が、第1号店の出店の地として選んだのは、老舗の不動産業者がひしめく競争の激しい松本市。この黎明期とも言える松本地域での活動は、今日のセンデンの事業基盤と、真の顧客サービスを見いだせた期間であり、その後、長野市への出店を皮切りに、年を追うごとに県内各地域へ展開できたことにつながっています。

**1999**  
(平成11年)

オフ輪4色機を導入。  
同時にデジタルカメラスタジオも設置(本社)し、更なる受注拡大を目指す。

**2001**  
(平成13年)

設計・品質管理の  
国際規格「ISO 9001」認証取得。

**2001**  
(平成13年)

エイブルネットワーク長野店オープン

**2002**  
(平成14年)

エイブルネットワーク南長野店オープン  
エイブルネットワーク松本駅前店オープン  
エイブルネットワーク長野駅前店オープン  
エイブルネットワーク塩尻広丘店オープン

**2003**  
(平成15年)

CHINTAI長野版を創刊  
設計・品質管理の  
国際規格「ISO 9001:2000」認証取得

**2003**  
(平成15年)

エイブルネットワーク豊科店オープン

**2004**  
(平成16年)

エイブルネットワーク諏訪店オープン  
エイブルネットワーク上田店オープン



2004年は、長野県下に9店舗まで展開を広げ、順調に経営推移していたこの年には、株式会社エイブル発行のネットワーク情報誌に全国の中から優良店社長として犬飼が掲載されました。

**2005**  
(平成17年)

WEB事業をスタート  
インターネットの普及とともに  
新たなニーズに対応できる体制へと。

印刷産業連合会より  
環境優良工場奨励賞を受賞



印刷物を通じて効果的な情報伝達を追求し続けてきた犬飼は2005年、時代と共にWEBサイトの構築が、お客様の広報や販促活動において不可欠となってきたことに着目し、当社でも新たな事業領域としてWEB事業体制をつくることを決断。本格的に専任スタッフを備え、WEB事業を開始しました。

**2005**  
(平成17年)

エイブルネットワーク長野駅前店オープン  
エイブルネットワーク飯田店オープン



**2006**  
(平成18年)

FSC®森林認証CoC認証取得  
「平成18年度 松本花いっぱいコンクール」にて  
団体最優秀賞を受賞。



プラルト本社に隣接する公園  
エコパークを企画

**2006**  
(平成18年)

エイブルネットワーク佐久店オープン  
エイブルネットワーク須坂店オープン  
エイブルネットワーク千曲店オープン

**2007**  
(平成19年)

プラルト安曇野営業所を開設

**2008**  
(平成20年)

**特別書籍**  
**信濃の国 風土編・人物編発刊**

WEB事業部がJWDA主催  
「第3回WEBデザインアワード」にて  
優秀賞を獲得。

「平成20年度 松本花いっぱいコンクール」にて  
団体最優秀賞を受賞。

**2008**  
(平成20年)

**松本市蟻ヶ崎にセンデン本社を移転  
本社ビル(K&Kビル竣工)**



店舗運営の管理業務集中化を目的に本社機能  
を移転。また、管理者・社員研修のさらなる強化  
を図るため、あらたに研修センターも設置。

**2009**  
(平成21年)

WEB事業部がJWDA主催  
「第4回WEBデザインアワード」にて  
奨励賞を獲得。  
プライバシーマーク許諾証取得  
「平成21年度 松本花いっぱいコンクール」にて  
団体最優秀賞を受賞。

**2009**  
(平成21年)

Pマーク許諾認証取得

**2010**  
(平成22年)

エイブルネットワーク伊那店オープン

**2011**  
(平成23年)

「平成23年度 松本花いっぱいコンクール」にて  
団体最優秀賞を受賞。

**2012**  
(平成24年)

エイブルネットワーク長野駅前店 移転  
エイブルネットワーク松本インター店オープン

**2012**  
(平成24年)

**株式会社プラルト60周年  
株式会社センデン40周年  
合同記念式典を挙**

「平成24年度 松本花いっぱいコンクール」にて  
団体最優秀賞を受賞。

**60<sup>th</sup> & 40<sup>th</sup>**  
**ANNIVERSARY**  
PRALT SINCE 1952  
SEN DEN SINCE 1972



2012年は、プラルトが創立60周年、センデンが40周年  
という節目の年を迎え、犬飼は、記念事業を挙。ホテル  
ブエナビスタにて盛大に式典を開催しました。地域  
官公庁様、お客様、協力会社様、OB、そして両社全社員  
を招き、日頃の感謝を伝えるとともに、今後の抱負を述  
べました。また、創業以来活動してきた松本市への寄  
付、役員紹介、イベント、お食事会などを催し、総勢400  
名を超える出席者で盛大におこなわれました。式の最  
後には、プラルト、センデン全社員からお祝いと感謝の  
メッセージ集を寄贈され、心温まる式典となりました。



2014  
(平成26年)

日本アグファ・ゲバルトが主催する  
印刷コンテスト  
Sublima+Printing Contest 2013  
印刷技術部門にて金賞を受賞

信州首都圏総合活動拠点(銀座NAGANO)へ  
「信州の大型山岳写真パネル」を寄贈  
阿部守一県知事より感謝状が贈られる。



2014  
(平成26年)

エイブルネットワーク軽井沢店オープン  
エイブルネットワーク松本駅前店 移転

2015  
(平成27年)

Sublima+Printing Contest 2014  
写真集部門にて金賞を受賞

2015  
(平成27年)

エイブルネットワーク豊科店から安曇野店に  
名称変更

2016  
(平成28年)

Sublima+Printing Contest 2015  
社長賞を受賞

レーザー加工機および  
UVインクジェットプリンター設備  
「ドラゴンルーム」を設置

2017  
(平成29年)

映像事業部 設立  
全てのオフセット印刷機を  
「水なし印刷機」仕様に変更  
日本ブックデザイン賞にて特別賞を受賞

2020  
(令和2年)

エイブルネットワーク飯田店  
リニューアルオープン

2021  
(令和3年)

国際規格「ISO14001」認証取得  
長野県SDGs推進企業制度へ登録  
長野県南安曇農業高等学校  
創立百周年事業への寄付

2022  
(令和4年)

株式会社センデン  
代表取締役会長に就任  
エイブルネットワーク諏訪店  
リニューアルオープン

2022  
(令和4年)

12月13日逝去

地域を愛し半世紀、  
活動してきた想いと郷土愛をかたちにした

## 特別書籍 「信濃の国」の発行

犬飼は、創業50年を迎えた頃から、「この地域に何か恩返しでき、貢献できることはないか」と考えた折、「長野県には、県歌としての“信濃の国”がある。この県民の心を一つにする素晴らしいふるさとの歌、また歌にも登場する美しい風景や文化、歴史を後世に伝えることができる本を制作できないか」と考えました。

奇しくも犬飼が、「信濃の国」の作詞者である浅井洌先生が晩年を過ごされた黒岩家に若い頃下宿していたこともあり、その経験も相まってこの案に決まりました。この計画を実施するにあたっては、「信濃の国プロジェクト実行委員会」を発足。地元企業、郷土史研究者の方々など本計画にご賛同いただいた方も交え、スタートしました。

大きくは「信濃の国」の歌詞をなぞりながら、信州の歴史、風土、文化、作詞者浅井洌の生涯にふれる「風土編」と、政治、経済、文化など各界で活躍する県内出身、県内在住の方々の信州への想いを掲載する「人物編」の2巻を制作し、後世へのメッセージとして発刊することになりました。

また、完成した本は県内の小中学校、市町村、公共図書館に財団法人信濃教育会を通じて寄贈し、ご協賛いただいた方へ寄贈させていただくことも決まりました。

プロジェクトは、1年余りの活動期間を設け、平成19年に本格的に始動、平成20年に完成・発行することに決めました。ちょうどこの年は、「信濃の国誕生110年」、「県歌制定40年」、「浅井洌先生ご生誕160年」という佳節にあたることもあり、ますますこの本の完成に意欲を燃やすきっかけにもなりました。制作中には、資料収集や取材などで困難を極める場面もあり、紆余曲折もありましたが、さまざまな文献や信州の歴史に出逢え、また数多くの県出身の著名な方々とも交流できました。



信濃の国プロジェクト実行委員会として平成20年7月に「県民の心をひとつにした歌～後世に残す信州の記録～ 信濃の国」として風土編・人物編の2巻セットで完成。大変意義のある本の完成は、実行委員会ならびに当社としても感慨深いものとなりました。完成時の長野県庁への事業報告がNHKのニュースで取り上げられたほか、新聞各紙にも多数掲載され、私たちの想像以上に大きな反響がありました。現在でも感想を寄せていただいています。



## 信濃の国 [風土編]

A4判 242ページ 上製本 オールカラー

「信濃の国」の一番から六番までの歌詞をなぞり、信濃の国誕生の背景やいきさつ、作詞者浅井洸の生涯等にも触れながら、詞に登場する信州各地の風土、文化、産業、歴史を、現在の風景も交えダイナミックな写真とともに紹介しています。



## 信濃の国 [人物編]

A4判 190ページ 上製本 オールカラー

県内出身、県内在住の政治、経済、文化各界の64人と1団体の方々に郷土への想いや活躍されてきた人生、後世へのメッセージをインタビュー形式で掲載。併せて信州ゆかりの歴史上の人物も掲載しています。

信州の美しい風景とともに、いつまでも心に残しておきたいメロディ「信濃の国」。信濃の国プロジェクトのひとつとしてオリジナル企画設計された「信濃の国オルゴールボックス」は、国内一流楽器メーカーとの共同により実現しました。筐体は、ピアノ鏡面塗装を施すなど、名曲を奏でるにふさわしい逸品となりました。



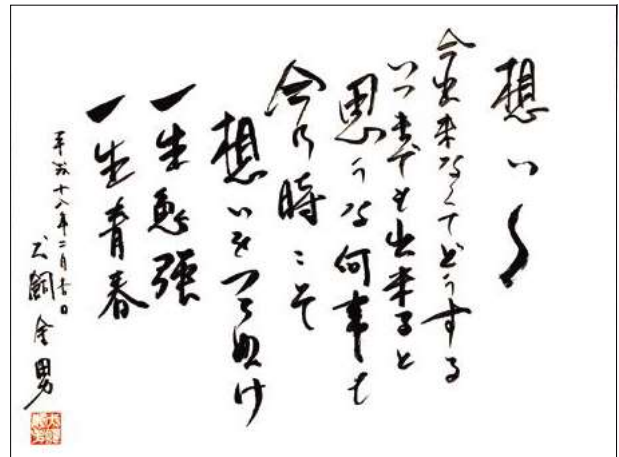


# 犬飼金男の言葉

社員たちへのメッセージ

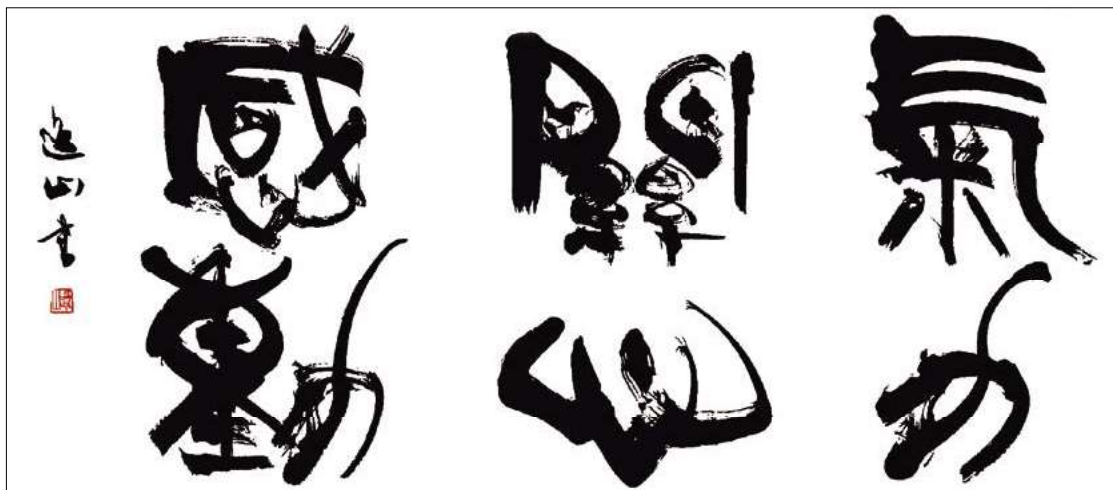
犬飼は、折に触れて社員に仕事に対する考え方をプラルトの社内に直筆の言葉として掲げ、遺してくれました。社員たちもまた、日頃からこの言葉を意識して業務に取り組み、チャレンジ精神を培っていきました。

また、来社するお客様の目に触れ、度々感銘を受けたとのこと言葉をいただくことも幾度もありました。



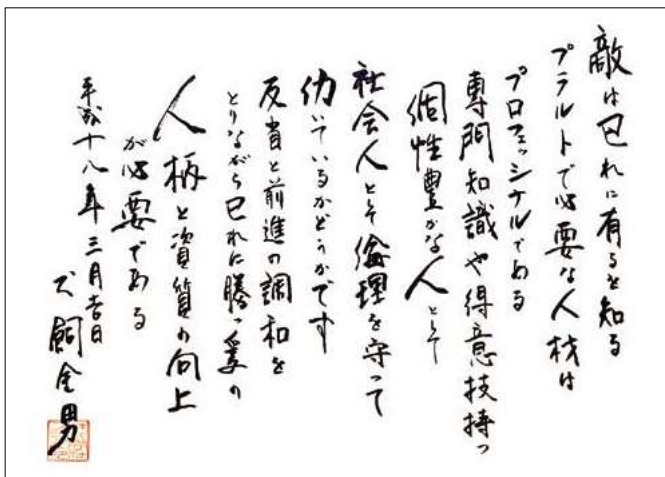
## 「想い想い」

成果や結果は「今」の積み重ねと継続。出来ないと諦めたり、先延ばしにするのではなく今その時の想いをつらめくこと。犬飼の「やれば出来る」の精神はその瞬間の想いの貫徹にあります。平成18年2月



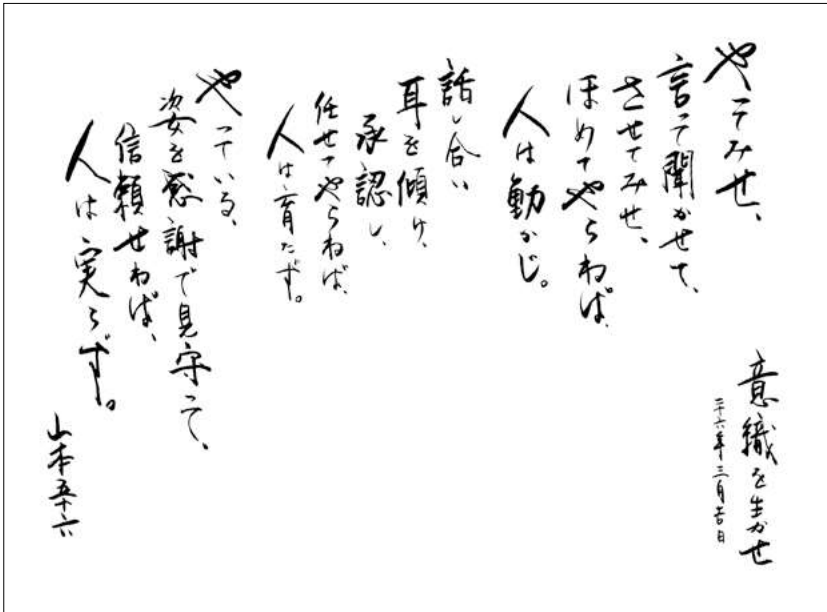
## 「気力・関心・感動」

犬飼は、常にこの3つの言葉を大切にすることをこころがけていました。私たち社員にもこの言葉に「無」をつけるような仕事はすべきではない、気力をもって仕事に励み、お客様の事業や新しい技術に関心を持ち、そして、感動していただけるような仕事をしていこうということを話していました。プラルトに掲示している額は、日展書家であり、犬飼の古くからの知人である大澤逸山先生によるものです。



## 「敵は己に有るを知る」

プラルトに必要な人材は、専門知識、得意技、そして豊かな個性を持つ「プロフェッショナル」それらを人と比べ競うのではなく、自分自身で高め、打ち勝つことが人柄と資質の向上となると犬飼は社員を律します。平成18年3月



「意識を生かせ」-山本五十六

犬飼が感銘を受けた大日本帝国海軍大将山本五十六のこの格言は、今も多くの企業や団体での経営者理念に活かされています。個性も技術もそれぞれ多くの社員が集う会社において、犬飼は社員一人ひとりの成果や努力を常に見守ってきました。平成26年3月

↔ 変化から進化へ ↔

企業全体の生き生きとした「変化」であり  
その先にある、企業体質の「強化」  
勝ち残るため、自由への「進化」です。

---

**良い環境で!!**  
社員を強くする。  
現場を強くする。  
そして  
会社を強くする。

**PRART**  
PRADISE ART

「変化から進化へ」

移り変わりの激しい社会において、印刷やデジタル業界は特に大きな影響を受けやすいものです。その影響をむしろ会社の進化のきっかけにできるように、単に変化させるのではなく、強さに変え、会社として生き残るための進化に昇華させることが犬飼の姿勢でした。平成27年

★目標は…

すくやる。  
必ずやる。  
出来るまでやる。

「目標は…」

「やれば出来ますからね。」月初の全体朝礼で犬飼が必ず社員に送るひとこと。目標のまま掲げておくのではなく、行動に移すこと、そのスピード、実行力。犬飼が作り上げた会社の姿勢がこの短文に集約されています。



## プラルトの変革と挑戦

これまで世界地図が幾度と刷り直されてきたように、私達プラルトも印刷の枠組を超え

世界の在り方の変革に貢献してきました。

その背景にはプラルトならではの「印刷テクノロジー」

の存在があります。印刷を核に挑戦を続け

私達の体系化してきたさまざまな技術

社員一人ひとりに刻み込まれた知識ノウハウ

おと、これらを包含ししるを私達は

「印刷テクノロジー」と呼んでいます。この「印刷テクノロジー」を軸に

分野の壁を超え、あなたに思いこみ届けたい。

人々の生活健康や安全安心を届けて

曲直なモノに情報やメディアの変革への対応

地球環境保全など、社会の課題解決の

一翼を担う企業に、私達は「約束」します。

あなたにその場で考えを豊かで美しい感性性を

持った多様な人材が「トータルソリューション」を

生み出し世界を変えていくことを。

その変革を決して止めないことを


願っています。

2015年9月15日... 平成二十七年九月十五日

### 「プラルトの変革と挑戦」

中信凸版印刷所としての創業当時から単に印刷物をお客様から言われたとおりに刷ってきたわけでは  
ありません。常に世界の、社会の変革にアンテナを張り、お客様の要望を真摯に受け止め、社員一人ひと  
りの知識ノウハウで「印刷テクノロジー」を確立してきました。

この在り方を犬飼は常に念頭に置き、単なる印刷会社ではなく世界の課題解決を担えるような挑戦をし  
続けることを宣言しました。平成27年9月



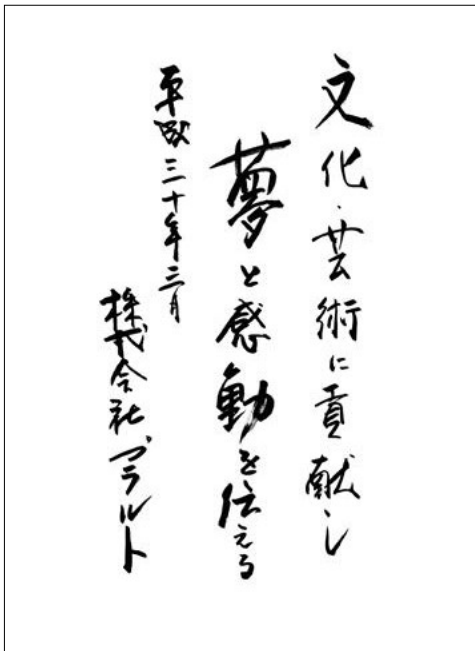
PRART  
株式会社 プラルト

### 改善、改革の基本精神十ヶ条

- 一、まずは「固定観念」を捨てよ。
- 二、困りや問題を感じなければ「改善、改革」はスタートしない。
- 三、言い訳をするな、まず「現実を否定」せよ。
- 四、出来ない理由より「やる」方法を考えよ。
- 五、完璧を求めるより「中の上くらいで良い」すぐスタートしろ。
- 六、誤りは「即」直せ。
- 七、まず「チエ」を出せ、自分の知恵にはお金はかからない。
- 八、「なぜ」を五回繰り返せ、真因を追究せよ。
- 九、一人の「知識」より、十人の「チエ」を生かせ、すぐに聞け。
- 十、革新は「無限」である。

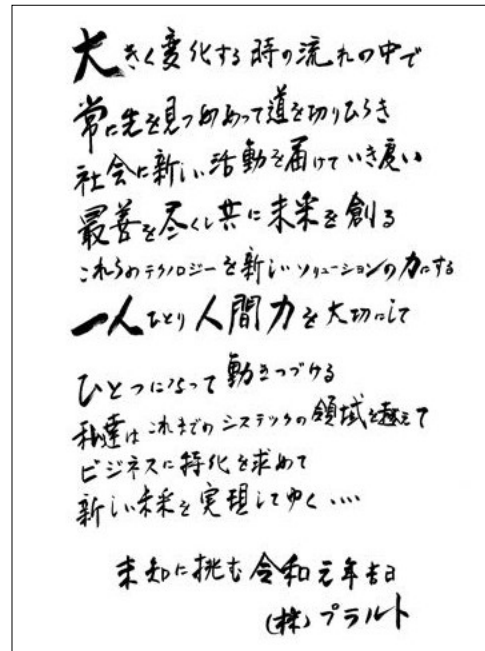
### 「改善、改革の基本精神十ヶ条」

社会や世界の変化に合わせ、常に進化を遂げてきたプラルトにとって支柱となる心構え。犬飼が大切にしている「やれば出来る」や行動へのスピード感、一人ひとりの知恵や技術を結集する、などの精神や考え方が一つずつしっかりと含まれています。



「文化芸術に貢献し夢と感動を伝える」

平成後半は印刷、グラフィックデザイン、Webと様々な部門で多くの賞をいただきました。プラルトの技術は物的な成果に留まらず、社会や人々に心的な成果ももたらす。犬飼の創業当時からの姿勢をまさしく表わしています。平成30年3月



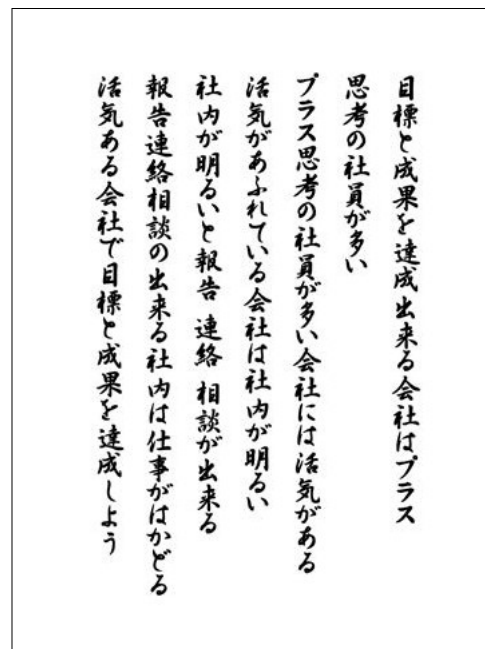
「大きく変化する時の流れの中で」

良いことも悪いことも、先を見通すのが難しくなってきた「令和」の時代。そのような中でも犬飼とプラルトの姿勢は変わらず、常に一步先を見据え、社員一人ひとりの力と会社の技術で未知へ挑戦し続けることでもあります。令和元年



「人生五訓」

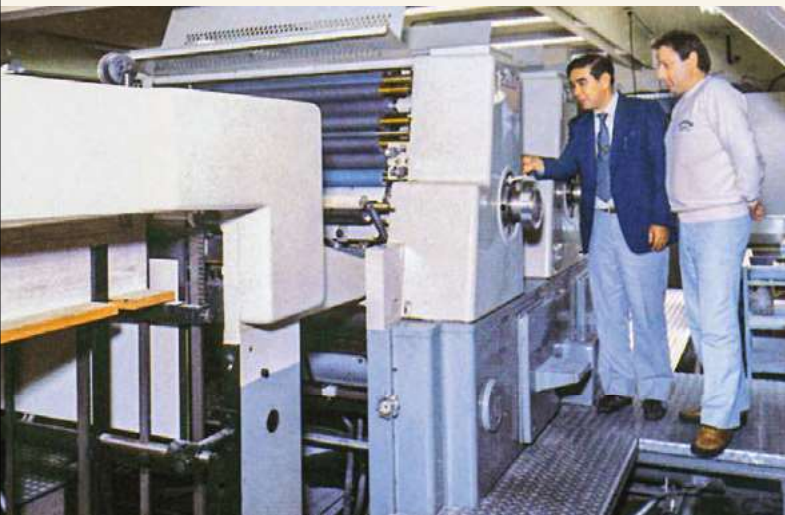
禅の教えともいわれるこの格言。落ち着いて、決して驕り高ぶらず、という流れの後、締め「まけるな」の一言が印象に残ります。70年以上も会社を続けてきた犬飼とそれに続いた社員たちの気迫が伝わってきます。



「目標と成果を達成出来る会社は」

ひとつのものを作り上げるのに、それぞれの部署、役割を超えたチーム体制が必要です。社員一人ひとりの少しの気の持ちよう、仕事の成果につながります。身近なことから一つずつ確実に。犬飼が大切にしてきたモットーです。





## 犬飼金男在りし日のスナップ

①	②	⑥	⑦
③			
④	⑤	⑧	

- ①1970年後半当時の最新鋭の両面カラー印刷機(西ドイツミラー社製)導入
- ②ミラー社本社技師リッチンガー氏とともに
- ③1993年松本市笹賀本社移転時に当時のスタッフとともに記念撮影





#### プラルト 60周年&センデン 40周年式典

- ④愛孫カンナさんより花束贈呈
- ⑤来賓のお出迎え(式典出席人数約400名)
- ⑥式典にてお客様、社員に感謝の言葉を述べる
- ⑦プラルト・センデン役員(当時)の紹介
- ⑧式典では地元松本蟻ヶ崎高等学校書道部による記念作品が飾られる





プラルト 60 周年&センデン 40 周年式典

①	②	⑦	⑧
③	④	⑨	⑩ ⑪
⑤	⑥	⑫	⑬

- ①株式会社エイブル本社よりそれまでの業績を讃え感謝の盾が贈られる
- ②プラルト及びセンデンの創業地松本市に地域で活動させていただいた感謝を表し寄付をおこなう
- ③多くのご来賓者一人ひとりに感謝を伝える





- ④プラルトOBと思い出話に花を咲かせる
- ⑤式典終了後には、プラルト・センデン両社社員から感謝の寄せ書きが贈られる
- ⑥プラルト・センデン両社社員に未来への思いを伝える
- ⑦センデン本部長(当時)河合氏と社員旅行にて
- ⑧社内の宴でも人気の的

- ⑨社内の宴会時に恒例となっていた犬飼主催のじゃんけん大会の一コマ(勝ち抜き者には豪華景品が贈られた)
- ⑩犬飼が宴の最後に必ず行った一本締め
- ⑪共に経営を行ってきたメンバーと
- ⑫社員に愛された犬飼自身の誕生日には花束が贈られる
- ⑬プラルト新年式にて社員たちと(2022年1月)





①	②	⑤	⑥
	③	⑦	
	④	⑧	⑨

- ①愛孫によるプライベート旅行での一コマ
- ②③孫を愛した犬飼は休日にはよく一緒に出かけた(政志さんと大地さんとともに)
- ④長女香織氏一家との旅行の一コマ





- ⑤愛孫カンナさんとともに
- ⑥犬飼自慢のプライベートショット
- ⑦⑧⑨長年中山霊園奉賛会の会長を務め、毎年行われる親睦旅行を楽しんだ





# 家族葬











インタビュー

## 顧問 上条紀幸氏

創業間もないプラルトの黎明期より故犬飼金男と事業を拡大させてきた上条氏。プラルトでは、常務、専務、副社長を歴任し、社業の礎を築き発展させた。現在顧問。

犬飼会長と出会ったのはお互い20代、中信凸版印刷所を創業して間もない頃。会長(当時社長)が営業で、印刷を行う年配の職人さんなど従業員が5人ほどの会社でした。

私は知人の紹介で、印刷工として入社しましたが、自分は営業職の方が向いているのではと考え、社長にお願いして営業職として職務をスタートしました。ちょうど日本の経済も、戦後の復興から豊かになっていく兆しが見えてきた頃で、松本平の地域もスーパーマーケットが誕生したり、大手電機メーカーの生産工場が活性化してきたりと、商業的にも盛んになってきていました。その市場の中で、中信凸版は、地域でも後発の印刷会社だったので必死でした。

官公庁、病院、工場、商店…業種にとらわれず、営業をしていきました。私も若さゆえにどんどんお客様のもとに飛び込んでいき、他社と競合する場面も幾度もありましたが、犬飼会長は、いつでも大きな心で見守ってくれていましたし、私が思うことに対してとことんチャレンジさせてくださいました。

時には、営業方針で議論し合うこともありましたが、会長が事業を成功させる執念や意欲をととても強く持たれていたからこそ、私も感化され、50年以上の間、一緒に歩んでこられたと思っています。

創業から時代の変化に伴い、当社も活版印刷からオフセット印刷、モノクロ印刷からカラー印刷、さらにプラルトに社名を変え、印刷事業だけでなくWEBや映像など事業展開も幅をもたせ、今日に至っていますが、会長が常に大切にしていた「企業は人なり」という考え方により、多くの従業員が成長してこられたと実感しています。

会長がお亡くなりになり、新たな社長のもと新体制としてスタートしていくこととなりますが、会長がいつでも夢を描き、経営に反映されたことを忘れずに社員一丸となって後世につづき社会に貢献できるプラルトを築きつづけてほしいと願っています。



**PRART**  
株式会社 フラット



**SENDEN**  
株式会社 センデン

